

1. 評価結果概要表

平成20年4月28日

【評価実施概要】

事業所番号	0110317328		
法人名	医療法人社団鈴木内科医院		
事業所名	グループホーム きよた		
所在地	〒004-0844 札幌市清田区清田4条2丁目10番25号 (電話) 011-882-4188		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成20年2月27日	評価確定日	平成20年4月28日

【情報提供票より】 (20年1月24日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)14年9月30日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	7人, 非常勤 2人, 常勤換算 7.9人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1～2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	有() 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(45,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要 (2月27日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	3	要介護2	無		
要介護3	2	要介護4	3		
要介護5	1	要支援2	無		
年齢	平均 82歳	最低	70歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	札幌しらかば台病院・玄番歯科クリニック
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営母体である医療法人は、医療と連携を取り、地域に密着した介護を目指し、平成14年に当事業所を開設した。国道から約1km程入った住宅街にあり、事業所前が小学校で、日中など子供達の声が聞こえ、利用者に安らぎを与えている。近隣には、大型スーパーや商店が並び、日常の暮らしに便利な環境である。住宅を改造した事業所は、施設というイメージは無く、自宅に居る感覚で落ち着きが持てる。1階は食堂、台所及び居間の共有部分に、広めの部屋は夫婦部屋として利用されている。2階は各居室の他に、共用スペースも確保され、詰め所も1～2階にそれぞれあり、利用者を常に見守れる体制が出来ている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善点で、トイレの表示方法や温度、湿度計の設置については改善されている。事業所名の表示方法については、運営推進会議の中、家族の意見を尊重し、現状のままで良いとの事である。改善課題について、ホーム会議や運営推進会議で話し合われたが、明確な改善計画が立てられておらず、取り組み内容を確認する記録が取られていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員に自己評価をしてもらい、その内容をホーム長がまとめている。作成された自己評価について、全職員で確認し合うミーティングなどは行われていない。評価の意義をホーム長及び職員は理解してはいるが今一度、日々のサービスを振り返りながらケアの見直しに繋げていく取り組みが望まれる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は定期的開催され、そこで出された意見、要望はあまり多くはないが、全職員で検討し、サービス向上に活かしている。会議の内容は事業所側からの報告が多く、地域密着型サービスを実践する上で、参加メンバーから率直な意見、要望を頂き、双方向的な会議にする配慮が望まれる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月個別に出される「きよメール」「ホーム長だより」で、入居者の日々の暮らしぶりや、健康状態などを報告している。毎月家族に来訪を願い、預かり金の確認と共に、家族の意見、要望、不満などの聞き取りも行っている。運営推進会議内においても、家族は自由に発言できる雰囲気であり、常に家族の希望に添えるよう取り組んでいる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入しており、地域の行事などには利用者と共に参加している。町内会長とも親しく交流があり、相談しやすい環境である。老人会の定例会にも参加している。小学校との交流のほか、今後は保育園児との交流も計画している。</p>

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時より法人理念を基本に、事業所独自の理念を作り、ケアサービスを行っているが、介護保険制度の改正後、地域密着型サービスとしての役割を反映した、理念となっているかの見直しは行われていない。	○	法人理念を基盤に、地域密着型サービスとして何が大切か、全職員で話し合い、住み慣れた地域で安心した暮らしや、地域生活の継続を支えるための現状にあった理念の見直しが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の申し送りや毎月のホーム会議において、理念に触れ確認しあっている。また、常に目に触れるように、玄関や共有スペースに掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の行事や老人会の定例会にも利用者と共に参加している。隣接の「きよたⅡ」において、大正琴の演奏や映画の上映などのボランティアとの交流もある。更に、保育園児との交流も計画されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム長、職員は、自己評価及び外部評価の意義を正しく理解し、全員で自己評価に取り組んでいるが、外部評価で見出された課題についての具体的な改善計画が立てられておらず、記録も残されていない。	○	前回の評価結果の改善点についての取り組みは行われているが、具体的な改善計画の検討や実践についての記録が無い。評価を形式的な作業に終わらせず、ケアの振り返りや見直しに役立てる意味でも、記録に残す事が望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催されている。会議では、避難訓練や行事などの話し合い、家族の意見、要望の聞き取りや、評価の取り組み状況についての報告も行われているが、全体的に会議の内容が事業所の「報告会」にとどまっている。	○	運営推進会議は、地域の理解と支援を得るための重要な機会である。サービスの向上に活かすためにも、参加メンバーから率直な意見、要望を頂き、双方向的な会議にする配慮が望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	清田区懇親会において、認知症の講演を行うなど、母体法人を通じて市の活動に協力している。清田区の担当者とは、常に相談できる環境にあり、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月家族に来訪を願い、預かり金の確認と共に、利用者の近況報告を行っている。また、利用者個人の写真付きの「きよメール」やホーム長による「ホーム長だより」を送付して、日々の暮らしぶりや、健康状態を家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書及び重要事項説明書などにおいて、内部、外部への苦情相談窓口を明示している。来訪時や運営推進会議において、家族から意見、不満、要望を聞き、事業所の運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年まで、職員の退職が数件あったが、最近は無。ホーム長は出来るだけ職員と話し合う場を作り、離職を抑える努力をし、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者及びホーム長は、職員に対して外部研修が受けられるよう研修計画を立て、研修費用も含め配慮している。また、ホーム会議での勉強会や、法人内での週1回の勉強会、清田区グループホーム研修会に参加し、職員の育成を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に区民センターにおいて、他の事業所との勉強会を開催している。ホーム長を通じて他の事業所への見学を実施し、交流を深め、互いの質の向上を目指す取り組みが行われている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が納得した上でサービスが利用できるように、事前に本人及び家族に事業所を見学して頂いている。本人が不安を感じないように、職員は家族と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	月に数回、利用者が昼食の献立から調理まで行う日を決め、共に過ごし、学び、支えあう関係づくりに留意している。常に職員は、利用者と協働しながら和やかな生活ができるように、場面づくりや声かけをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの聞き取りや、本人の会話や行動などから、生活暦、趣味、趣向、特技、習慣など把握し、出来るだけ希望に沿えるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者ごとに担当者を決め、利用者及び家族の意見、要望を聞き、全職員でカンファレンス会議のもと、ケアの統一を図り介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとにサービス担当者が集まり、介護計画の見直しが行われている。必要に応じて本人、家族などと話し合い、その都度現状に即した見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接する母体医療機関では、ディケアセンターや居宅介護支援事業を実施しており、近隣の高齢者が利用されている。また、利用者の日常の健康管理や症状の急変、その他緊急時にも医療連携体制が整っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の納得のもと、事業所の協力医療機関の利用が多いが、以前からのかかりつけ医を希望する場合は、その要望に沿った対応を行い支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、利用者の重度化した場合や終末期における対応についての指針は有り、文書化され家族への説明も成されている。しかし、事業所全体での話し合いや、職員間の意思の確認は行われていない。	○	重度化や終末期に向けた支援のあり方は、利用者や家族の大きな関心事の一つである。出来るだけ早い段階で、話し合いの機会を持ち、関係者全体での意思の統一を図って行くことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者には、はっきりと丁寧に穏やかな口調で話しかけている。利用者一人ひとりの尊厳を大切にし、常に声をかけてから支援している。記録等の個人情報は、鍵のかかる棚に保管されている。廃棄書類はシュレッターを使用している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時々希望に応えることが難しい時もあるが、計画を立てて利用者の要望を出来るだけ叶うように努めている。事業所では基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりの利用者に合わせた支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの能力に合わせて、買い物、調理、盛り付け、食事、後片付けなどを一緒に行っている。料理は義歯使用者にも食べやすいよう工夫されている。また、職員は食事介助しながらも、楽しい雰囲気作りを心がけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は利用者の生活パターンに合わせており、出来るだけ本人の希望に沿った支援をしている。入浴を拒む利用者には、言葉掛けを工夫したり、時間をおいて声を掛けるなど、一人ひとりの気持ちや習慣に合わせた支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメント記録や日々の関わりの中で、その人に合った役割を見つけて、一緒に行っている。ボランティアの受け入れや誕生会などを通じて、皆で楽しめる場面を作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩や週に数回の買い物には、一緒に出かけている。歩行に不安のある利用者でも、車椅子を使用して戸外に散歩に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の権利擁護については、勉強会で職員の共通認識を図っている。日中、玄関は開放されている。今まで、一人で外出しようとした利用者はいないが、職員は常にさりげなく見守っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時には即消火出来るように、台所、廊下、玄関にとそれぞれ消火器が設置されている。消防署の協力を得て、年に2回避難訓練を実施している。非常災害時の町内の連絡網が作られており、地域住民5～6名のボランティアによる協力体制ができています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事量や水分量などを、毎日記録し、職員間で情報を共有している。年1回栄養士に献立のチェックをしてもらい、アドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔に保たれている。窓からの陽射しは柔らかく、景色は季節を感じさせてくれる。リビングには、ソファが3つ置かれており、自由に好きな場所に座れ、居心地良い空間づくりの工夫と配慮がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の同意のもと、備え付けの家具が置かれているが、馴染みの家具も持ち込まれている。壁や棚には家族の写真や絵、装飾品が飾られ、利用者が居心地良く過ごせるよう工夫されている。		

※  は、重点項目。